

科目コード	N317
授業科目名	緩和ケア論
授業科目名(英文)	Palliative Care
講義室等	1103
学科	看護学科
対象学年	3年
開講学年	前学期
必修・選択の別	選択
単位数	1
時間数	15
該当ディプロマ	◎看DP-3、看DP-1、看DP-2、看DP-5
学科	
対象学年	
開講学年	
必修・選択の別	
単位数	
時間数	
該当ディプロマ	
担当教員	柴田 弘子
授業の概要	緩和ケアの定義を学び、緩和ケアにおける看護の役割について理解を深め、自らが倫理的ジレンマに直面した場合、それらのジレンマから目を逸らさず冷静に捉え、自らの倫理観と死生観について考察し、よりよい実践を見出すことができるための基礎的知識、態度を養う。
授業の到達目標 (学修効果)	1. 緩和ケアの定義、目的、関連する概念、看護の位置づけを説明できる。 2. 緩和ケアにおける全人的苦痛の概念を説明できる。 3. 緩和ケアにおけるチームアプローチと看護の役割について説明できる。 4. 倫理的ジレンマへの対処を通して、看護者に求められる行動について自分の意見を述べるができる。
予習復習の所要時間	講義時間16時間(2時間×1コマ×8回)+予習・復習29時間
成績評価方法	課題レポート(50%)、演習評価(50%)により、総合的に判定し、60点以上を合格とする。
教科書	宮下光令編集「ナーシンググラフィカ成人看護学⑥ 緩和ケア」第3版(メディカ出版) ISBN 978-4-8404-7540-2
参考書	恒藤 暁、田村恵子編集「系統看護学講座 別巻 緩和ケア」第3版(医学書院) ISBN 978-4-260-03865-2
その他	本科目は選択科目であるが、「緩和ケア」はすべての看護領域に共通するケアの本質に関わる分野である。是非、学んでほしい。

非常勤講師(学内：1 学外：2)

回	年月日	曜日	時限	授業項目	授業の形態	講師	非常勤	備考
1	R4.4.19	火	IV	緩和ケアの歴史、対象、目的	講義	柴田 弘子		
				予習 テキストの該当部分を読んでおく				
				復習 「学習の振り返り」を確認する				
2	R4.4.26	火	IV	緩和ケアの方法1 症状マネジメントと身体的苦痛の看護	講義	柴田 弘子		前回の「学習の振り返り」を持参すること
				予習 テキストの該当部分を読んでおく				
				復習 「学習の振り返り」を確認する				
3	R4.5.10	火	IV	緩和ケアの方法2 精神心理的苦痛、社会的苦痛と看護	講義	柴田 弘子		前回の「学習の振り返り」を持参すること
				予習 テキストの該当部分を読んでおく				
				復習 「学習の振り返り」を確認する				
4	R4.5.17	火	IV	緩和ケアの方法3 生命倫理と緩和ケア(演習含)	講義・ディスカッション	柴田 弘子		前回の「学習の振り返り」を持参すること 課題レポート
				予習 テキストの該当部分を読んでおく				
				復習 「学習の振り返り」を確認する				
5	R4.5.24	火	IV	緩和ケアの方法4 臨床倫理と緩和ケア(演習含)	講義・ディスカッション	柴田 弘子		前回の「学習の振り返り」を持参すること 課題レポート
				予習 テキストの該当部分を読んでおく				
				復習 「学習の振り返り」を確認する				
6	R4.5.31	火	IV	緩和ケアの方法5 在宅医療と緩和ケア(演習含)	講義・グループワーク	柴田 弘子		課題レポート
				予習 テキストの該当部分を読んでおく				
				復習 「学習の振り返り」を確認する				
7	R4.6.7	火	IV	緩和ケアの方法6 クロスロードを用いた演習	講義・グループワーク・発表	柴田 弘子		課題レポート
				予習 テキストの該当部分を読んでおく				
				復習 「学習の振り返り」を確認する				
8	R4.6.14	火	IV	看護における緩和ケア	講義	柴田 弘子		
				予習 テキストの該当部分を読んでおく				
				復習 「学習の振り返り」を確認する				